

ものづくり支援 3次補正で検討



ながさか・やすまさ 1957年、愛知県一宮市出身。青山学院大卒。海部俊樹元首相の秘書を経て、94年に愛知県議。2012年の衆院選で自民党から初当選。内閣府政務官などを歴任し、今年9月に組閣された菅義偉内閣で現職に就いた。

長坂経産副大臣インタビュー

新型コロナウイルス禍の長期化で、中部地方でも製造業を中心に深刻な打撃を受けている。愛知県一宮市出身の長坂康正経産産業副大臣は、本紙のインタビューに「ものづくりを支えていくことは重要。これから本年度の三次補正予算をやっていく中で、もう一押し何ができるか検討したい」との考えを示した。

中部地方では、自動車産業は持ち直しているものの、民間航空機産業などの製造業は引き続き厳しい状況。このため、長坂氏は「大企業を支える中小企業が継続していきけるよう、支援に全力で取り組む」と述べ、「経済団体に雇用の維持などの努力をお願いしたり、マッチングを支援したり取り組んでいる」とした。その上で航空機産業について、

中部からのお知らせ

食べられる？ 激辛「赤から」



イチビキが開発した「赤から鍋スープ30番」

イチビキが開発
みそやしょうゆなどを製造販売するイチビキ(名古屋市中区)は、甲羅(愛知県豊橋市)が運営する鍋料理店「赤から」の鍋つゆを再現した商品シリーズで、従来品より大幅に辛さを増した「ストリート赤から鍋スープ30番」を開発した。激辛を求めファンがいる一方、辛すぎず食べられないことも予想され、そのため、クラウドファンディング(CFD)で資金を募り、消費者からの手心えを探りながら商品化を目指す。

赤からの鍋つゆは数字が大きくなるほど辛さが増す。店舗では0〜10番まで十一段階で提供。イチビキは甲羅の監修のもとマイルドな辛さの「1番」や店の定番の「3番」、店の辛さを上回る「15番」などを商品化していった。

「30番」はこれまで使っていない複数のトウガラシを混ぜ、カプサイシンと呼ばれる辛味の主成分を「3番」の七十五倍以上含ませた。

十一月二十日から包装や配送費などの資金をCFDサイト「マクアケ」で募ったが、既に目標金額の百五十万円を達成。十二月二十日までは継続して資金を募り、金額に応じて「30番」の試作品などを贈る。

イチビキは「本当に辛いので、辛味の苦手な方の飲食は遠慮ください」とも呼び掛けている。

つばめがDidi加盟

タクシー配車アプリ

つばめタクシーグループ(名古屋市中区)は、タクシー配車アプリ「Didi」(ドイツ)に加盟したと発表した。千二百三十台を保有する大手のつばめグループの加盟は名古屋地区で十一グループ目。運営会社のDidiモビリティジャパンによると、同地区の四割超のタクシーを呼べるようになったという。

つばめの加盟に際し、Didiは自社システムとつばめのシステムを連携させた。運転手はアプリ経由で配車依頼でも車内に設置された既存のタブレット端末で応答できるため新たな負担がない。Didiがタクシー会社のシステムと連携するのは初の試みという。つばめ自動車の天野清美社長は「流し営業よりも効率的にお客さんを乗せられ、稼働率が上がる。収益も上がり、運転手の収入が安定することで良い人材の確保につながるという好循環が生まれる」と期待した。

Didiは利用者から配車一回ごとにアプリ利用料を徴収していたが、十月末で廃止し、多くの人に使うつもりで考え、十二月十日までは、愛知県を含む四県で決済サービス「ペイベイ」を利用して運賃を支払うと千円を上限に半額にすることも発表した。Didiモビリティジャパン営

インテリア雑貨メーカー「DULTON」とコラボ
ドラゴンズオリジナル
「カードケース」販売中
全部で4色！
[DragonsxDulton]